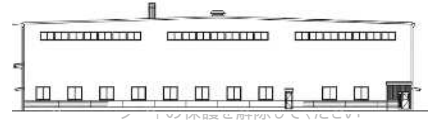


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)丸一鋼板株式会社 神奈川事業所	階数	地上1F
建設地	藤沢市葛原 新産業の森北部地区2街区	構造	S造
用途地域	市街化区域	平均居住人員	30 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年10月 予定	評価の実施日	2015年4月6日
敷地面積	11,443 m <sup>2</sup>	作成者	大和ハウス工業㈱
建築面積	4,580 m <sup>2</sup>	確認日	2015年4月6日
延床面積	4,580 m <sup>2</sup>	確認者	大和ハウス工業㈱



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 0.9</b> ★★☆☆☆☆</p> <p>S: A: B+: B: C:</p>	<p>標準計算</p> <p>30%: 60%: 80%: 100%: 100%超:</p> <p>参照値</p> <p>建設物の取組み</p> <p>上記+ 以外の</p> <p>上記+</p> <p>0 46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> Qのスコア = 2.6</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア = 0.0</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア = 3.6</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> Q3のスコア = 2.0</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> LRのスコア = 3.1</p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア = 3.0</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア = 3.2</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア = 3.3</p>

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
	外壁にガルバリウム鋼板を使用し耐用年数を向上させる等、サービス性能に配慮	可能な限り緑地を配する等、敷地内環境に配慮
	節水器具及び節水型便器を採用する等、資源に配慮	

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと。評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される